

令和元年度指定管理者評価表(令和2年度実施)

施設名	国崎クリーンセンター啓発施設
施設の設置目的	ごみ減量及びリサイクルに関する情報の発信並びに自然や環境問題について学習を通じ循環型社会の構築に寄与することを目的とする。
指定管理者	株式会社トータルメディア開発研究所
選定方法及び指定期間	選定方法:公募 指定期間:平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
評価対象期間	平成31年4月1日から令和2年3月31日まで
指定管理委託料(令和元年度)	66,991千円

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価	
管理 体制 等 に 関 する 項 目	施設提供のための適正な 人員配置	・事業計画書に則した人的配置がなされている。	・環境啓発活動に根ざした地域連携に努め、第3期指定管理業務計画に則した適切な人員配置を行った。 ・適材適所により、ワークショップや各種啓発業務、地域連携の他、里山保全ボランティア育成、ごみ減量化へ向けた啓発活動に努めた。 ・経験値の高い非常勤を配置することにより、計画通りの業務を遂行すると共に、住民目線でのサービス提供、臨機応変な接遇に努めている。 ・チームとしての業務遂行をベースとし、日々情報共有を行っている。 ・ゆめほたる里山クラブのリーダーを選任。 ・里山専従スタッフ(非常勤)として1名追加した。	・業務計画に則した適切な人員配置を行い、また、 個々のキャリアや能力を活かした配置となっている。 ・職員全体の経験年数が長くなることで、円滑で安定的な事業運営等が実施できている。 ・朝礼で前日までと当日の情報共有をノートやメールを通じて図っている。	B	<p>令和2年9月4日に評価協議会を開催し、指定管理者及び組合に対してヒアリングを実施した。ヒアリングの主な内容は次のとおり。</p> <p>【主な質疑】</p> <p>Q. 毎年、事業数が多いが、限られた職員で事業を実施しているが大丈夫か。事業の見直しをされないのか。 A. 事業数や回数がバランスよく増減しており、仕事量は増えているわけではないです。また、中高生向けなど様々なプログラムも検討しています。</p> <p>Q. 新型コロナウイルス対策について、施設運営はどのようにされていたか。 A. 各種のガイドラインを参考に、独自に必要な内容について抽出したものでマニュアル化しており、そのマニュアルに則って対応を実施しています。また、今後はオンライン化を進めていこうと考えています。</p>
	指揮命令系統の確立	・組織として指揮命令系統が確立されている。	・組織体制・指揮命令系統等を定め、確実な運用を行っている。 ・本社とも2回の定例会の実施、業務支援など連携をしている。 ・本社運営の他施設の指定管理業務で得たノウハウなどを共有し、運営に役立っている。	・組織体制、指揮命令系統に従い、運用が出来ている。	B	
	職員研修の実施	・事業計画書に則した職員研修が実施されている。	・利用目的の多様化が進む中、より一層の「丁寧さ」と「親切さ」を重視した接客対応をめざし、充実した研修会を実施している。地域在住のベテラン講師を招き、京大留学生の団体見学日に合わせて接遇と英語でのガイド研修(英語での自己紹介・ガイド)を行った。 ・実務研修についてはOJTにより随時実施している。 ・実務能力向上へ向け、本年度はスタッフ全員で四日市市クリーンセンターを見学し、ガイドのやり方、誘導の仕方、展示物等について知見を深めた。 ・全国の環境学習施設等と廃棄物資源循環学会の研究会(ゆめほたるが事務局担当)が開催する研修会等を通して情報交換したり、川西市自然活動団体交流研究会や森林保全活動研究会等へ参加し、広い視野で環境学習に関わる情報を取得し、良質な運営・啓発活動に活かしている。 ・法令理解、個人情報保護について、本社社員を招いての研修(情報)を実施している。 ・本年度の研修受講は、視察延べ13名、研修延べ33名、研究会延べ18名。資格等は、木工講座への活用として”職業訓練指導員”、“木材加工用機械作業主任者”、“子どもへの環境学習へ活かす”環境教育インストラクター”の各1名。	・ガイド業務等の向上や施設利用の多様化への対応のため、接遇研修や英語を交えた会話等の研修を通じ、運営サービスの向上に取り組んでいる。 ・環境啓発に関する施設見学や会議等を通じ、住民意識向上や環境教育の普及に役立てるとともに、様々な団体と今後繋がる交流を図ることで、幅広い情報収集も可能にしている。 ・個々が出席する研修等で得られた情報等を報告書や資料を通じて職員全体で情報共有し、質疑応答も行いながら、事業運営等に活かしている。 ・各種資格取得により個々のスキルアップが図られ、業務に活かされている。	A	
	基本的なサービスの 提供	・利用許可、案内等が適切かつ迅速である。 ・業務や接遇について、多くの苦情を受けていない。	・施設組合の規程に則した業務を遂行しており、業務内容に関しては、概ね良好である。 ・電話・WEB・FAXでの仮受付やフォローをしており、利用者の立場に立った適切な対応を行っている。 ・申請書類等については簿冊にて適切に整理保管している。	・利用許可や案内等を適切に対応している。 ・申請書類等を適切に簿冊管理及び整理し、保管していることを確認した。	B	
	苦情等への対応と報告	・苦情対応が適切になされている。 ・苦情について、記録・報告されている。	・苦情等発生と同時に施設組合へ報告すると共に、業務日報へ記載している。また、苦情等の発生時には適切な対応を行っている。 ・窓口、電話、電子メールなど、利用者から広く意見を受け入れる体制を整えている。 ・5月催事日に屋上庭園において幼児が転倒し眉間を切創した際には、救急車手配とともに、ご家族を別室へご案内し、状況を伺うなど、動揺するお客様に対して、落ち着いた態度で安心感を与える対応ができた。 ・6月の催事「ジャズとホテルの夕べ」において、コンサート会場内で一部の利用者が飲酒され、傍に座っていた利用者より報告があった。 飲酒されていたと思われるお客様には丁寧に説明して飲酒をお止めいただき、報告いただいたお客様には丁寧に詫言した。敷地内での飲酒禁止の案内を掲示し、予防に努めた。	・事業実施後に受講者や参加者、講師から意見をいただき、幅広く意見を受け入れる体制を継続している。	B	
	利用者の安全確保	・安全確保対策を徹底している。 ・職員に指導徹底している。	・安全管理マニュアルを作成し職員全員に徹底している。 ・全職員が消防署の普通救命講習(AED研修)を受講している。 ・万が一に備えて、“指定管理者賠償責任保険”、“里山保全における指定管理者自賠責対象外地への保険”(ア)兵庫県ボランティア保険活動等行事用保険、(イ)森林ボランティア保険)、“ドローン保険”に加入している。	・安全管理マニュアルに基づき、指導が行われていることを確認した。 ・組合主催の普通救命講習を職員が順に受講していることを確認。	B	
	緊急体制・マニュアル・研修の対応	・緊急時に迅速に対応できるように、責任者、組織が整備されている。 ・緊急時に、組合に迅速に連絡・報告し、指示を受けるための連絡網ができています。 ・職員の対応マニュアルがあり、研修・訓練が定期的または必要に応じて実施されている。 ・実際に緊急事態が発生した際、適切に対応できた。	・緊急対応ができるよう、安全管理マニュアル及び対応体制(非常時/緊急時の役割分担)、緊急連絡網を整備し、毎年更新している。 ・常勤全職員が甲種防火管理者及び普通救命講習Ⅱクラスを修了している。基本は、施設組合の「不適合事象対応マニュアル」に則った対応を行い、定期訓練・安全講習に参加している。	・安全管理マニュアルに基づき、指導が行われていることを確認するとともに、緊急連絡網や体制が整備されていることを確認した。	B	

項目		評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価
管理体制等に関する項目	施設の管理	施設の点検・保守管理	・協定等で定める範囲の施設について、適切な管理がなされている。 ・定期的に安全確認し、組合に報告されている。	・日常点検・定期点検及び安全確認を適切に実施し、日報及び火元責任者自主点検表にて報告している。 ・点検結果は施設組合に報告している。 ・施設全体の経年劣化も含め、さらなる安全管理を徹底し、安全管理につとめている。	・適切な管理がされていることを確認した。	B 【主な意見】 ・次代を担う若い人材の育成について検討いただきたい。 ・コロナ禍で不安が広がる中で、普段通りになくなった時に見えてくることへの対応として、見える化できないか検討しては。
		個人情報保護	・指定管理者が管理する個人情報について、漏洩、紛失等の事故防止のため、管理体制を整えている。 ・指定管理者が管理する個人情報について目的外利用していない。	・個人情報を含む書類は厳重に施錠保管するなど、基本協定書記載の個人情報取扱特記事項に則り、適切に管理している。 ・不要となった個人情報記載書類については、民間業者の書類溶融サービスを利用して廃棄している。 ・情報セキュリティポリシーを策定している。 ・PC内の電子データについては、外部記録装置(USBメモリなど)を用いた事務所外への持ち出しを禁止している。 ・全職員のPCにセキュリティソフトをインストールしている。	・個人情報保護に係る管理体制(キャビネット施錠等)が整えられていることを確認した。 ・情報セキュリティポリシーを策定し、継続的に運用されていることを確認した。 ・不要となった個人情報書類等は、年数回の溶融サービスで、適切に廃棄処分していることを確認した。	B
		文書管理	・文書・帳簿類が適正に作成・管理されている。	・報告書等文書・帳票類に関して、期日どおり作成しており、事務所内及び本社にて保管・管理している。 ・事務所内の書類については、種類別、年度別に簿冊管理している。	・文書、帳簿類が適切に保管されていることを確認した。	B
		備品管理	・備品台帳が整備されている。	・備品台帳により、消耗品を除く備品管理をしている。 ・新規購入または廃棄に際しては随時台帳更新している。 ・経年劣化による更新等に関しては、施設組合と協議しながら進めている。	・備品台帳が適切に管理されていることを確認した。	B
		指定管理者が行う修繕	・指定管理者が行うべき修繕について、適正に実施されている。 ・修繕箇所について、随時、組合に報告されている。	・基本協定のとおり、管理施設・管理物品1件につき20万円未満の修繕(QA展示用液晶ディスプレイ補修、プリンター等の機材更新含む等)について適切に修繕を行い、大きな修繕・更新は随時、他は日報により報告している。	・修繕について、適切に実施されていることを確認した。	B
経営状況に関する項目	経営状況	経理事務の実施状況	・収支にかかる帳票類が整備されており、適正な経理処理が実施されている。	・月次で適切に処理しており、帳票類の内容を一覧化している。	指定管理者の経営状況に関する評価については、協議会内で行うには時間的制約があることから、専門部会を設けて評価を行った。7月16日に評価協議会委員(税理士)・所管課・指定管理者の三者にて会計処理評価部会を実施し、指定管理者の経営状況について評価を行った。概要は次のとおり。 指定管理者から、各収支に係る会計処理方法とその関係書類の保管状況及び令和元年度収支金額の全体説明と個別の各項目につき、説明を受け質疑応答した。	以上、各評価観点にかかる両者の説明に対して、提出資料の精査及び質疑応答などを行い確認したところ、指定管理者の自己評価及び組合の所管課評価のとおりとし、総体的には評価指標「B」に該当すると判断する。 評価：B
		収支の状況	・収支決算書と収支計画書とに大きな隔たりはないか。ある場合は、その原因など。	・人件費については、下半期において、法定福利費(年休等)が常勤と同等に引き上げられたため、予算計画より増えている。 ・管理費の図書等購入費については、図書システムの更新及び昨年度同様に基本図書の充実などを図ったため、予算計画より増えている。 ・事業費の広報宣伝費は経費削減を努力している。	(1) 収入と支出全体のバランスはとれており問題は無い。収入面は、講座講演会参加等の収入は計画を達成、雑収入は14.1%未達だが、合計で計画を達成している。支出面は人件費、事業費等で計画を上回った項目と、植栽管理費、広報宣伝費等で計画を下回った項目があったが全体で1%計画を上回ったが問題無しと判断した。 (2) 実査については、①小口現金支払い②請求書による支払い③注文書発行(外注)による支払い④施設利用料収入⑤イベント等の収入について定められたルールに沿って処理されているかを確認した。特に見積、発注、納品、請求の各書類の整合性、そのチェックの実施状況及び金銭の出入金時のチェック(検印等)と入帳及び残高確認の有無を実査した結果全てルールに沿って適切に処理されている。 (3) 帳票類については、予算執行申請書、精算伝票、現金出納帳、見積書、注文請書、納品伝票、施設使用許可書、使用料収納報告書、イベント実施報告書等の保管状況を確認した。以上の各書類は適切に管理、保管されている。 (4) 指摘事項として、自主事業に関し、自主事業個別調書を作成しているが、現在の様式に加えて参加者数、収益金、直接費用等の計画、実績の数字が入ればイベントの評価、収支計算表との整合等で利用価値はもっと上がると思われる。なお、前年の指摘事項である年度収支計画の「過去の実績等からもう少し厳しく計画願いたい項目もある」という部分は、令和2年度収支計画において実行されていることを確認した。	
		販売上の状況	A: 350万円以上 B: 250万円以上350万円未満 C: 150万円以上250万円未満 D: 150万円未満	・2月末から3月末までの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響があったが、事業収入合計は、3,053,168円であった。スタッフ全員のたゆまぬ努力の賜物である。すでに運営環境(予算、人員、駐車場等)から限界であると考えているが、持続可能な社会へ向けて、楽しみながら継続できる様な内容で身近にある再利用素材の活用や、地域講師からのアイデアを活かした講座の実施等様々な工夫を施し、可能な範囲で、講座・ワークショップの参加や催事での物販等売り上げ向上へ努力した。		
運営事業等に関する項目	事業計画に基づく事業実施状況	利用者数	A: 3万5千人以上 B: 2万5千人以上3万5千人未満 C: 1万5千人以上2万5千人未満 D: 1万5千人未満	・年間の総利用者数は、31,179人であった。新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、上述どおり、すでに運営環境(予算、人員、駐車場等)から限界であると考えている。 ・状況に応じて、住民に届きやすい方法を工夫し、さらなる地域住民の環境意識の高揚へ向けて進んでまいりたい。	・限られた運営環境で事業実施等をされ、また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら、前年度以前と異なる状況もある中で、年間総利用者数は継続して安定的に3万人を超えている。創意工夫を凝らし、事業運営等を実施されている結果と考える。	B 【主な質疑】 Q. 利用者数が運営環境(予算、人員、駐車場等)から限界とあるが、どうか。 A. 会場についてイベント時の駐車場台数や参加者数の制約があり、また、それに伴い対応する職員の人件費にも制約があります。こうした課題を解決するには多目的広場を駐車場にしたり、人件費を倍にしたりと大きな改革をしないと利用者数の増加は難しいと考えています。
		ファミリーフリーマーケット参加者数(4回合計) ※新型コロナウイルス感染症の影響で令和元年度は3回合計の参加者数で評価しています。	A: 6000人以上(4500人以上) B: 4000人以上6000人未満(3000人以上4500人未満) C: 2000人以上4000人未満(1500人以上3000人未満) D: 2000人未満(1500人未満) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月末実施。年4回合計を3回に()内は置き換えた数値としています。	・新型コロナウイルス感染症の影響により3月度のファミリーフリーマーケットが実施できなかった。 ・6月、9月、12月の3回実施で年間3,430人の参加があった。1回平均1,143人。 ・ゆめほたるのファミリーフリーマーケット定着とリュウスの輪のますますの広がりを感している。 ・ゆめほたるでフリマデビューをされるシニア層も多く、経験値の高いスタッフ達によるきめ細やかな対応により、リピートに繋がっている。	・3月度のファミリーフリーマーケットは新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったが、年間を通して、安定・継続的に多くの参加者がある。日々の地道な活動やPRによる地域等への事業周知が出来ていると考える。また、長期的に事業実施する中で、事業が地域に浸透・定着してきている。	B
		利用者満足度 ・スタッフの対応	A: 「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B: 「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C: 「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D: 「とてもよい」「よい」の割合が40%未満	・スタッフの対応についてのアンケート(512名回答)において、「とてもよい」「よい」を合わせて93%の満足度となった。 ・リピーターに関しては、コミュニケーションの中でニーズを引き出すなど工夫している。特記事項などは朝礼や全体会議でメンバーに周知し、より良い施設運営に向けて情報共有と改善へ向けた対策を施している。日々、きめ細やかな対応を心掛けている。	・施設利用者へのアンケートを通じ、「とてもよい」(65%)、「よい」(28%)の回答をいただいております、利用者から満足をいただいている結果と考える。	A
		利用者満足度 ・「施設見学や展示解説」、もしくは「講師やプログラム」の内容	A: 「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B: 「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C: 「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D: 「とてもよい」「よい」の割合が40%未満	・内容についてのアンケートにおいて、「とてもよい」「よい」を合わせて92%の満足度となった。 ・特に夏休みのワークショップは、保護者、子ども双方の満足度が高かった。今まで通り、利用者とのコミュニケーションの中でニーズを引き出す様努力し、工夫しながら進化している。特記事項などは朝礼や全体会議でメンバーに周知し、より良い施設運営に向けて情報共有と改善へ向けた対策を施している。	・施設利用者へのアンケートを通じ、「とてもよい」(59%)、「よい」(32%)の回答をいただいております、利用者から満足をいただいている結果と考えるが、安定的に継続して今後も利用者ニーズに引き合わせた創意工夫を実施されることを期待する。	A
						Q. 視聴覚室の利用件数が他と比較して少ないが、どういった使い方をされているか。 A. 実績については、企業研修(NEC、ダイハツ等)で会議室として利用されています。その他、多目的広場利用者が打合せとして利用されています。件数も過去から徐々に増加しています。

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価	
運営事業等に関する項目	施設見学サポート業務		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日3回の定期見学ツアーを行う他、下見や視察対応など、施設見学サポートを実施。利用者のご希望内容に応じた柔軟な対応をしている。 ・子どもの年齢層に合わせて、ガラスびん3R促進協議会提供のDVD鑑賞を組み込む等、工夫を施している。 ・よりわかりやすい対応に向けて、情報の共有・更新をしており、職員全員が見学サポートを行うに必要な基本知識を有している。 ・プラスチック製容器包装の分別について、ペットボトルや汚れた物の混入など具体的にわかりやすいガイドに努めた。 ・一人ひとりの心がけによって、エネルギーの削減につながる様、実践へ向けた簡単なエコアクション(PETボトルつぶし体験、風呂敷の使い方、生ごみ水切り等)の紹介なども行った。 ・Q&Aノートにお客様とのやりとりを記載、朝礼での報告などタイムリーに情報共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成市町(兵庫県川西市、猪名川町・大阪府豊能町、能勢町)の小学4年生の社会見学として、25校が見学に来られた。 ・ガイド等来場者へのわかりやすい説明や支援等を行うため、職員間での情報共有や質疑応答を通して、より良いサービスの提供に繋げようと努力されている。 	<p>Q. 天体観望会は夜中(未明)でのイベントとしてできないか。</p> <p>A. ホタル観察会は少人数のため夜中までの対応ができていますが、天体観望会は参加者が多いイベントのため、安全管理など含めて対応が難しいです。</p>	
	団体対応業務		<ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域団体等からの予約受付及び見学サポートを適切に行う他、団体からの各種要望(里山学習、昼食場所、工作、滞在時間等)について柔軟な対応に努めている。 ・特別オーダーがあれば、施設組合様と協議した上、手選別室内見学等のスペシャルツアーを組み込み、匂いや音などを感じてもらえるガイドもしている。 ・昼食を摂る団体には、多目的広場のご利用をお勧めし、天然芝で遊んでもらうなど施設の魅力発信に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成市町は28校中25校が見学に来られた。各学校における施設利用の要望に応じ、カリキュラムの設定を行い、その中で選択肢の幅を広げる努力をされている。 ・豊能町、能勢町からの要望で、バックヤードを見学する取り組みを継続して行っている。 	<p>Q. ミツマタの生育状況はどうなっているか。</p> <p>A. 令和元年12月に植栽を行い、現在生育状況を確認しながら経過観察を行っています。</p>	
	環境情報センター管理業務		<ul style="list-style-type: none"> ・地域図書館との連携事業として、第2回読書感想文コンテストを実施した。閉館10周年記念として全国からの応募も可能とし前年度の10倍の99名の応募があった。身近な行動による環境意識の向上へ向けて、施設の持ち味を活かし、より効果的な啓発活動に努めた。 ・蔵書の充実が好影響を生み、Webでの蔵書検索、新刊コーナーなどは利用者から好評である。里山保全技術者養成講座受講生とクラフトバンド受講生の利用が多かった。 ・地域内の里山保全関係者がゆめほたるブレンド珈琲を飲みながら打ち合わせするという利用も増えている。催事や平日のファミリーだけでなく、施設の利活用が多様化している。 ・地域企業、商工会、一庫公園、一庫ダム、知明湖キャンプ場及び黒川地域との連携、兵庫県立人と自然の博物館など教育研究機関とも連携し、啓発事業にかかる連携窓口として機能している。 ・地域内の県立高校の連携講座『明峰の学び』を本年度も実施。「エコラボ～SDGsを暮らし方～」と題し、授業を通して感じたことを「18番目のゴール」について考えてもらえる様メッセージを伝えた。次世代へ「もったいない」意識を伝え、楽しみながらもそれぞれができる事に繋げられるよう促した。 ・住友ゴム工業株の植樹維持活動(センター内植樹地)について協働した。 ・廃棄物資源循環学会の環境学習施設研究部会・事務局として、全国の環境学習施設の交流や情報発信等基幹的な役割を担っている。本年度は東北大学における研究発表会で、企画展示と環境フォーラム、及び11月に京都市への視察研修会を実施した。 ・学会や研究会等での全国的な情報発信、さらに国際シンポジウムにおいて研究発表を行うなど、国内外に認知を得た。 ・京都大学SDGsプロジェクト、日中青少年環境マンガ交流プロジェクト(3月の催事は中止)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時期や周知期間等の影響もあるが、新たな取り組みを展開し、幅広い世代へ環境啓発を行うため、より計画的、効果的な事業実施に向け、今後の更なる検討を期待する。 ・平成28年度から引き続き、廃棄物資源循環学会環境学習施設研究部会の事務局として、様々な環境関係団体との交流事業等幅広い取り組みをされている。 ・蔵書検索システムで、蔵書検索や新刊等の情報が円滑に検索可能となり、利用者の利便性向上に繋がっている。 ・平成30年度に引き続き、地域の公立高校からの依頼で出前授業を実施。次世代への環境啓発を行うことで、地域連携を行いながら、貢献を行っている。 ・地域の様々な団体等と連携しながら、情報交換や協力等を通して、貢献を続けている。 	<p>Q. 山山保全技術者養成講座受講者が元々、どんな活動をされていたか受講後どこで活動されているかを調査はされているか。また、講座後のリフレッシュ講習のようなもので横の連携などができないか。</p> <p>A. 元々、それぞれが各団体でボランティア活動されていることが多く、更に勉強をしたいなどで受講される方や講座で学んだ知識を持ち帰り、自身の団体と並行して活動をされている方もおられます。講習は1年おきに実施しており、受講後にボランティアとして活動をしていただくに当たり、きちんと活動ができるように、また、先輩ボランティアの方とコミュニケーションを図る期間を設けながら、横のつながりも含めて地域全体のレベルアップを目指しています。</p>	
	講演会、講習会、研究会等開催業務		<ul style="list-style-type: none"> ・5月の子ども向けの催事において、人形劇形式で環境保全啓発を継続して実施している。キャラクターなどが地域に馴染んできており、ファンも増えてきている。 ・11月の秋祭りにおいて、閉館10周年記念事業シンポジウム「国崎・黒川・一庫を語る ～古文書・古写真からひもとく～」を実施。小田康徳先生、田中晃代先生に地域の魅力や歴史について語っていただいた。シンポジウムに向けて、事前に広報紙「森の泉」等で古写真等の資料提供を呼びかけ、地域の方々や能勢電鉄よりご協力をいただいた。予想以上の資料が集まり、事前展示をすると見学利用者に好評であり、3月末まで展示期間を延長した。地域の歴史を知ること地域への愛情が醸成され、地域環境へと思いを馳せていただく効果がある。長期間に渡って環境啓発ができた。 ・アルミ缶リサイクル協会と連携し、パンフレット「みんなでできるアルミ缶リサイクル」を各クラス毎、チラシ「役立てようもう一度」を児童に配布し、アルミ缶のリサイクルについての啓発に努めた。 ・かえるステーションやペビー用品リユースコーナーにおいて、おもちゃやペビー用品のリユース事業を継続的に実施し好評を得ている。 ・能勢町夏休みの子どもの居場所づくり事業で能勢町と共催で子ども向け環境映画「地球との約束/私たちの未来」の上映会を開いた。参加人数145人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえるステーションやペビー用品リユースコーナーが継続的に好評である。 ・川西市(平成28年度)、猪名川町(平成29年度)、豊能町(平成30年度)に引き続き、令和元年度は能勢町で「地球との約束」、「私たちの未来」の上映を行い、子どもたちに地球温暖化問題が身近なものであることを感じてもらい、また、今すぐできるエコライフについて考えてもらえきっかけづくりとして啓発活動を行った。 ・今後も構成市町と協力・連携を図りながら啓発を行っていくことを確認した。 ・催事での講演会等開催による環境啓発活動が継続実施されている。 	<p>Q. 獣害対策セミナーの進捗状況は？</p> <p>A. 令和元年度より準備を進めていましたが、新型コロナウイルスの影響で延期となっています。(今後、開催に向け再準備中)</p>	
	事業計画に基づく事業実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書に掲げる各種事業の実施状況及び実施により得られた啓発効果 ・各種事業の利用促進にかかる改善点、工夫点 		<ul style="list-style-type: none"> ・木工教室、エコクッキング、和布リメイクなど各工房に適したエコ講座(ワークショップ等)を実施し、広く地域の方にご利用いただいている。 ・木工教室では受講後にグループレッスンなども実施し、利用者のニーズに柔軟に対応している。 ・里山フラワーアレンジメントでは花器にリサイクルやリユース品を使用し、花材に里山のものを使用するなど、施設の魅力発信に努めた。 ・廃びんできた小物を展示販売し、廃びんの利活用について研究し啓発に努めた。地域住民からの新たなアイデアなども盛り込み、クラブ化へ動き始めるなど、チャレンジを繰り返している。 ・新たにクラフトバンド講座を実施し、人気講座となりつつある。日頃から新たな運営内容について種まきと情報収集を継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木工教室、エコクッキング、和布リメイク、里山フラワーアレンジメントなどは、大変人気があり、安定した開催となっている。 ・リサイクル品での環境啓発活動の展開を新たに実施することで、様々なアイデアやチャレンジを導き出すことができおり、今後に繋がる活動として期待する。 	<p>Q. 地域の外部組織づくりの成果は。</p> <p>A. 川西市黒川の里山保全のため、立ち上げ協力したNP法人による維持管理や地元と使い方の協議を行ったり、日本一の里山として情報発信しています。また、県(県民局)主導の北摂里山地域循環共生圏事業で行政と共に参画協力しています。</p>
	多目的広場活用及びフリマ開催業務		<ul style="list-style-type: none"> ・春と秋の屋外フリーマーケットや里山まつりなど設置趣旨に沿った多目的広場の活用を広げている。新たに地域講師と紙ひこうきコンテストの実施など、出店者にも来館者にも楽しみながら参加できるよう催事の充実化に努めた。 ・週末利用の少年スポーツ団体やサイクリングイベントの大会実施の際には事前打ち合わせを行い、乗り合わせでの来場やごみ持ち帰りなども含め、施設を安全に、環境に配慮してご利用いただくよう努めた。 ・ファミリーフリーマーケットも定着し、リユースの輪がますます広がっている。 ・夏休みのお盆の時期に、天体観望会を実施し、夜間の多目的広場利用に努めた。78名の参加があり好評であった。 ・ゆめほたる講師や講座参加者が発起人となり地域のマルシェや手作りマーケットを実施するなど、魅力発信できる人材がゆめほたるから誕生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーフリーマーケット(屋内)は、開催時期等も定着しており、集客数も安定的で、リユースの啓発事業として好評である。また、通常の利用だけではなく、年2回の屋外フリーマーケット等でも、多目的広場を広く活用して環境啓発を実施している。 ・催事や各団体でのイベントに対し、乗り合わせでの来場やごみの持ち帰り、レジ袋削減に向けたマイバック持参のお願いを行う等、施設の安全や環境配慮の取り組みに努められている。 	<p>Q. 天体観望会やエドヒガン林散策ガイド等は、安定して開催されているか。</p> <p>A. ゲンジボタル観察会は安定的に参加者がおり、大変盛況である。今後も環境啓発を継続する上で、期待される事業である。</p>	
	屋外観察会開催業務		<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業と4年目の協働により「天体観望会inくにさき～夏の風物詩ペルセウス座流星群～」を実施。 ・エドヒガン林散策ガイド、野鳥観察会、国崎の里山林を活用した自然観察会(小学生の里山学習)、ゲンジボタル観察会を実施し大変好評を得た。新型コロナウイルスの関係で中止となったが、野鳥観察会に関しては3月上旬にバードウォッチングと名称を変え、観察場所も変えるなど新たな内容で実施予定があり、多数のお申込みをいただいていた。 ・ヒメボタル観察会に関しては、雨天中止としたが、経年の記録のため講師らとともに雨天の中、安全面に配慮して観察を行った。 ・当施設の恵まれた自然環境を十分に活用すべく、創意工夫をこらした事業展開に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天体観望会やエドヒガン林散策ガイド等は、安定して開催されている。 ・ゲンジボタル観察会は安定的に参加者がおり、大変盛況である。今後も環境啓発を継続する上で、期待される事業である。 		
	貸館業務		<ul style="list-style-type: none"> ・各種クラブ員や利用者を使いやすいように、整理整頓やコミュニケーションに努め、リピートに繋げている。 ・多目的広場利用者へ他の貸室もご案内し、広場使用と同時に保護者説明会での講座室利用など複数施設の利用が増えた。 ・平日利用の学校団体などへ、昼食会場や自由遊びなどで天然芝の多目的広場利用を誘導するなど、施設の魅力普及に努めている。 ・企業研修(NEC、ダイハツ等)の下見の際には、積極的に各工房、視聴覚室、講座室をご案内し、貸室利用につなげた。日々、利用率向上の努力と取組みを行っている。 ・土日祝休日の視聴覚室・講座室利用時には、事前説明や掲示物等により、セキュリティエリアへの侵入防止へのご協力依頼等、施設全体が安全にスムーズに管理できるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候等に左右されやすい状況の中でも、多目的広場は、小学校等施設への滞在時間が長い団体や家族に対して、昼食会場等での利用の誘導を行ったり、講座室や視聴覚室等についても企業研修や催事等で活用を行うなど、貸館業務における利用率向上へ努力いただいている。 		
	ボランティア運営業務		<ul style="list-style-type: none"> ・第3期里山保全技術者養成講座を実施し、新たに20名の里山保全ボランティアが誕生した。座学・実技を盛り込み、安全に実施することができた。 ・第1期・2期のゆめほたる里山クラブ員も先輩指導者として講座の一部を担ったり、受講生自身にも里山関連の取組みや課題を発表するなど積極的参加を促したり、実りの多い講座となるよう努めた。受講生と講師が一体となり、地域の課題について共有化を図り、養成講座自体が課題解決への糸口となるように試みた。地域の課題解決に向けた、協力関係の礎が築けた。 ・ボランティアの中からリーダー的な役割を担うメンバーも育ち、益々地域ボランティアが活性化された。 ・里山林の裸地化や土壌流出などを防ぐために、鹿の不嗜好植物である「ミツマタ」の試験植栽を、ゆめほたる里山クラブ・施設組合・啓発施設の3者で協働実施した。 ・ボランティアのゆめほたるクラブには、現在112名が登録されている(令和2年3月31日時点のボランティア保険加入数)。 ・環境活動に意欲的な方々に対して、集いの場・交流の場を提供している。 ・里山ナイフメイキングクラブ、環境科学技術クラブ等の活動が活発化している。夏休みに「IoTであそぼう」講座を実施するなど新たな視点でも協力いただける講師が増えている。さらに、廃ガラスを利用したガラスクラブも誕生する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめほたるクラブの登録者数は、毎年横ばい程度で安定的に推移している。 ・里山保全ボランティアと共に自然学習ゾーン内等の里山林維持管理に貢献いただいている。また、新たに第3期の里山保全技術者養成講座を実施し、座学や実技を通して20名の里山保全ボランティアの育成を行った。 ・新たなクラブ活動も立ち上がり、施設運営において様々な視点での事業展開に向け、活動の幅を広げている。 		

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価
運営事業等に関する項目	事業計画に基づく事業実施状況	<p>「森の泉」編集業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書に掲げる各種事業の実施状況及び実施により得られた啓発効果 ・各種事業の利用促進にかかる改善点、工夫点 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間6回の編集作業を行う。着実に本紙の認知度が上昇し、利用者増加につながっている。 ・「森の泉」は、1市3町の住民の皆様へ情報提供を行う重要なツールであり、編集にあたっては、読者の視点に立ち、読みやすい・見やすい・わかりやすい紙面構成を心掛け、好評を得ている。年間722通のアンケートハガキが届いた。前年度709通。 ・各種講座案内と共に、ファミリーフリーマーケット、リユース家具、ベビー用品リユース、貸室、フードドライブ、施設見学などをとりあげ、ゆめほたるのアピールと利用促進に貢献した。 ・森の泉記載の連絡先にFAX番号を追記し、利用者の利便性向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい紙面構成やレイアウトを心掛けることで、「森の泉」の認知度上昇に貢献している。 ・広報編集に係るチェック体制をしっかりと整えられている。 	<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みワークショップのPRと期間中のバスの運行も検討をさせては。 ・次世代の子どもたちとの連携について、協力依頼などが地域からあればお願いしたい。
		<p>施設利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各貸室、多目的広場の利用状況(前年度対比) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月から3月にかけて新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として講座等の中止と休館措置を講じたため、年間の見学・部屋利用・出前を合わせた総利用者数は、31,179人となり、前年度比90.1%となった。各室利用件数が前年度比100.8%、各室利用人数が前年度比92%。 ・芝生状況と利用者の希望、及び駐車場の調整をしながら貸出を行い、良好に業務遂行ができた。夏休みの夜間の講座「天体観望会」を継続しており、駐車場がスポーツ利用と重ならないように多目的広場を利用するという工夫を施している。 ・小学校団体などへ昼食場所としての使用を誘導するなど、多目的な施設の魅力を広める努力をした効果もあり、利用件数が微増。 ・日常的な見学利用は、地域の福祉施設が定期的に施設見学や展示見学に来られている。また、近隣市町の放課後学童保育などが夏休みにかえっこ体験と施設見学として利用されるなど、新規団体が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は3万人台で近年は安定している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響や天候等に左右され、利用人数が減少したが、そうした状況の中でも多目的広場は、小学校等施設への滞在時間が長い団体や家族に対して、昼食会場などでの利用の誘導を行うなど、工夫をしながら利用者の増加に向けて努力されている。 ・啓発施設の自主事業と施設見学を上手く合わせながら、利用者の増加に繋げようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、講師の高齢化への対策をお願いしたい。 ・組合議員など関係者にも集まっていたり、啓発施設の状況を知っていただく機会を設けて情報発信してみたい。 ・量より質的な評価に今後はスライドしていく方が良いのでは。また、自主学習やリモートワークなどの環境設定をすることで、この地域や立地に合った事業展開を伸ばされたらどうか。リモート環境の整備を今後進めないとけない。
		<p>地域活性化、地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化、地域貢献のためのイベント等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs(持続可能な開発目標)に向けた取組みを行う、NPO法人北摂里山文化保存会や北摂里山地域循環共生圏の立ち上げに貢献した。 ・『北摂里山まつり2019～地域まるごと里山まつり～』を地域の諸団体(NPO法人北摂里山文化保存会、川西ライオンズクラブ・川西源氏支部、能勢電鉄、コラッジョ川西サイクリングチーム)と共催した。地域のお祭りや日程が重なったこともあり、昨年ほどの集客はなかったが、1,414名の利用人数となった。 ・4年目となる「一庫ダム見学会」も好評で、62名の利用があった。 ・2月には「日本一の里山・黒川地域をめぐる」と題して、昨年に続き京都大学大学院の留学生(総勢22名)を地域へお招きし、川西市、兵庫県阪神北東民局、公益財団法人地球環境戦略研究機関とも連携し、国崎クリーンセンター・黒川一庫公園・一庫ダムを巡り、地域の魅力発信と活性化に貢献した。 ・能勢町内第2三恵園「感謝とふれあいの広場」での「ゆめほたる廃材ワークショップ体験」は毎年好評を得ている。 ・ケセラ川西せせらぎ公園探検ツアーガイドとして地域の魅力アップに向けて継続して協力している。3年目。 ・知明湖キャンプ場連携イベント「山ざらい」を開催。里山と地域の魅力発信に貢献した。地域で活動する団体とも連携している。 ・とよのまつり、のせ栗まつり、のせでんレールウェイフェスティバル(春と秋2回)、いながわキッズフェスティバルなどでかえっこバザールの出前事業を実施。 ・地域内の活動団体で初めてかえっこバザールの自主実施ができた。猪名川町楊津小学校区まちづくり協議会が単独でかえっこバザールを実施された。事前打ち合わせを行い備品等を貸し出した。別で新たに面をお作るなどの工夫もあり、地域のお祭りの賑わいに貢献された。2020年度も継続実施の予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs(持続可能な開発目標)に向けた取組みを行う団体の立ち上げや構成市町内で開催される事業への積極的な連携や協力を通じて、地域との交流を図りながら、環境啓発や地域の魅力発信に取り組んでいる。 ・啓発施設ゆめほたるが実施してきた「かえっこバザール」を備品貸し出しにより地域内の活動団体が単独実施できたことは大きな前進と考える。今後も多くの団体に波及していく事が啓発施設ゆめほたるの役割として活動展開し続けることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が地域に出掛けていき、ノウハウなどを地域団体に継承することについてもビジター数として利用者数の中で別にカウントしては。 ・中間支援などを通じ、結果がどうなっているかまでを含めて、育成のシナリオやストーリー性の発展まで見えてこない部分がある。 ・ビジョンを描き実現するまでの指定管理期間について、より良い期間設定をしていただきたい。(施設組合に対して) ・地域への情報発信を通して、発展させながら地域全体のかさ上げに繋げる拠点として、行政と連携し、上手くビジョンを描けるように取り組んでいただきたい。 ・教育委員会や学校との連携について、次世代を担う中高生向けの対策も重要と考える。
		<p>里山林維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山林整備構想計画に基づく事業協力 ・里山保全技術者の養成・活用 ・里山林維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月と1月に国崎クリーンセンター里山保全委員会を開催し、学術経験者や里山保全専門家などから、国崎の里山林保全についてのアドバイスを得た。 ・施設組合、啓発施設ゆめほたる、ゆめほたる里山クラブの3者協働で庭の不嗜好植物であるミツマタを100株試植するなど、土壌崩壊予防へ向けて対策等を施している。 ・2020年度獣害対策セミナー開催に向けて、講師選考や関係者への交渉などの準備作業を行った。 ・年間計画に則り、ゆめほたる里山クラブも交えて、里山林維持管理を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山林の保全に関する助言等を学識経験者や専門家からいただき、今後の検討材料としている。 ・里山保全ボランティアが定期的に活動を展開している。 ・里山保全ボランティアも含め、里山林の維持管理を計画に従い、適切に実施いただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・化学メーカーとのコラボでトレイ容器などに対する勉強や周知(環境学習として発信)を通じ、関連性も踏まえ検討しては。 ・地球温暖化や生物多様性だけでなく、今後の国際的な問題としてのプラスチック問題についても検討しては。
		<p>市町施策との連携、協働、支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町とごみ減量や分別の推進にかかる協議の実施 ・市町へのアドバイス、技術的支援 ・市町の要請による研修会、出前講座等の実施回数 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊能町ごみ減量等推進委員、能勢町リサイクル推進員研修会へのスペシャル見学会を実施。国崎クリーンセンター内のごみ処理工程等を見学いただき、日ごろ迷われるごみの分別方法や生ごみ減量の工夫など、身近な人に伝えていただけるよう分かりやすいガイドに努めた。 ・構成市町関係部署には、現在の出前講座の内容にスペシャル見学を組み合わせたい内容について、図書館には、ゆめほたる講座、里山講演会、展示スペースの活用などの提案を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊能町や能勢町から要望を受け、バックヤード見学を行い、ごみの分別や減量への理解を深め、また、身近に感じてもらえるよう分かりやすい説明を実施している。 ・構成市町のイベントに出店しながら、環境啓発に取り組んでいる。 	<p>以上、各評価観点にかかる両者の説明に対して、提出資料の精査及び質疑応答などを行い確認したところ、指定管理者の自己評価及び組合の所管課評価のとおりとし、総体的には評価指標「B」に該当すると判断する。</p>
		<p>その他改善努力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減に向けた努力 ・収入増加に向けた努力 ・業務の内容・手法に対する改善努力 ・社会貢献に向けた取り組み、関係団体や地域等との連携を図る取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・物品庫や書庫、消耗品や備品等は整理整頓し、業務効率化に努めている。 ・図書コーナーの展示についてブックスタンドを廃材で制作するなど経費削減に努め展示の工夫を施し、施設の魅力発信に努めた。 ・継続してレジ袋削減の告知啓発や物販でのレジ袋削減、プラスチック製容器包装ごみの削減に努めている。 ・ゆめほたるスタッフが指導する出前ワークショップやウィークエンドワークショップの材料は廃材や里山保全活動で出た間伐材を中心に活用している。 ・消耗品は最後まで使い切り、電気製品などは修繕(リペア)して再利用を心掛け、経費の節減に努めている。 ・ゆめほたるの夏期ミニワークショップにおいて、近畿大学のまちづくりを学ぶ学部と連携した。学生に指導してもらいながら制作するワークショップは利用者大変好評であった。夏休みにおけるワークショップチケットの販売が昨年よりさらに増した。(8月上げ・前年比8%増) ・わんだふるクラブが川西市防災訓練の中でペットの同行避難や避難所におけるケージへの収容訓練に参加協力した。 ・京都大学とUNESCOが連携した教育プログラムを実施。『日本一の里山・黒川地域をめぐる視察研修会』として受け入れ、施設見学や箸づくり体験をしていただいた。また、地域一帯(黒川の里山・炭焼き、一庫ダム、一庫公園)なども見学していただき、国内外へ地域の魅力をアピールした。 ・催事等で必要な備品等に関しては、知明湖キャンプ場・北摂里山博物館・阪神北東民局と連携し、それぞれの備品を相互利用し、地域で有効活用している。 ・報道機関に随時情報提供を行い、事業の周知を図った。また、構成市町広報課取材等への協力依頼があった場合は、積極的に対応した。広報かわにし6月号、広報いながわ11月号、春里MAP2020等。 ・能勢電鉄沿線情報紙 夏・秋・春号への情報提供。 ・TV局の取材(J:COMなど)を積極的に受け入れ、地域をはじめ多くの方がゆめほたるの活動シーンを視聴された。活動周知と施設の利用促進に役立っている。 ・「ごみをなくして海をきれいに紙ファイル」や「レジ袋削減啓発タオル」などを、アンケートや読書感想文コンクール、スタンプラリーの景品として環境啓発に有効活用した。アンケート回答数は昨年329枚のところ本年度は512枚に増えた。 ・SDGsの内容を大型パネルで展示し、施設全体で取り組んでいることをアピールし、住民に分かりやすい内容に努めた。また、手に取ってじっくり読んでいただけるように机上での展示も行った。私たち社会とのつながりについて理解できるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃材を活用した制作を行う等、環境配慮の展示工夫を行いながら施設の魅力発信を行うとともに、経費削減に繋げる努力をされている。 ・出前講座やワークショップにおいても、廃材や里山保全活動での間伐材を利用する等、資源の有効活用をされている。 ・広報紙等で継続してレジ袋削減について周知を行い、催事等ではレジ袋削減に努めている。 ・広報紙やチラシ配布の影響等もあり、夏期のワークショップ等が継続的に好評である。 ・構成市町及び関係団体との連携を通じ、老若男女問わず多くの方々と交流される中で、環境啓発ならびに国崎クリーンセンターの魅力発信を行っている。 ・構成市町の広報担当やマスメディアへの情報提供により、事業周知を図るとともに積極的な取材対応を受け入れることで、活動周知と施設周知が行われ、利用促進に貢献している。 ・SDGsの内容を大型パネルで展示し、施設全体での取り組みについてPRを行うとともに、関係する資料等も展示することで、来場者に分かりやすく、見やすいように工夫されている。 	<p style="text-align: right;">評価： B</p>

総合評価	<p>本指定管理業務の趣旨及び目的は、単なる施設管理業務だけではなく、ごみ減量やリサイクル等の継続的な啓発活動を通して、循環型社会の構築に寄与することにある。指定管理者の令和元年度業務について、協定書及び事業計画に基づき、適正に業務が実施されているか、要求水準以上の啓発効果が上げられているか、協議会及び専門部会の計2回の協議の場をもって確認を行った。管理体制面については、「適正な人員配置」や「職員研修の実施」、「個人情報保護」など12項目にわたる評価観点に基づき、提出資料の精査及び質疑応答を通じて確認を行ったところ、指定管理者の自己評価及び所管課評価のとおりであり、適正に業務が実施されていると判断した。経営状況3項目については、専門部会を通じて提出資料の精査及び質疑応答による確認を行い、一部指摘事項もあるが全体的には収支の内容とその処理方法が適正に実施されていると判断した。運営事業19項目については、各啓発事業実施状況やその成果について、指定管理者によるプレゼンテーション及びヒアリング等を通して確認を行ったところ、住民の環境意識を高めるため創意工夫された各啓発事業の実施、施設内外における地域との交流も含めた積極的な事業展開、各種団体や教育機関との連携によるネットワークの構築やその拡大など効果的な啓発活動を継続的に実施されていると評価した。</p> <p>【今後の啓発事業の展開にかかる提言】 平成21年の開館以降、ごみの減量や分別、リサイクル等を推進する循環型社会形成に根差したイベントや講座、ワークショップの開催を通じて、啓発施設への利用者数増加に様々な工夫をされ、限られた予算や人材の中で事業を年々拡大しながら、非常に努力をされていると感じる。なお、全体的な取り組みについて、非常に頑張っておられることも十分伝わってくるが、今後の将来展望にも期待することとし、今回の評価とした。引き続き、講座講師等や指定管理者の中で今後を見据えた次世代の人材育成や試行錯誤が継続的に必要になると考える。また、今後、新型コロナウイルス感染症など想定外の事象により、普段通りの事業実施ができないことも想定されるため、オンライン環境の設備充実など、地域のニーズや立地に合った事業展開が必要となると考える。</p>
評価：B	

附帯意見	<p>啓発施設においては、今後もビジョンを描きながら、計画性を持って事業に取り組んでいっていただきたい。また、小学生だけではなく、次世代を担う中高生向け環境学習等継続性を持った取り組みを教育委員会や学校と連携を図りながら実施していくことが重要と考える。その他、イベント等に対して人が集められず活動もできない状況が出てきた中で、普段通りにいかなかった時に見えてきたことに対し、築いてきた繋がりをどこまで見える化して実施できるか考えていただきたい。さらに、国際的な問題となっている、プラスチック問題を地球温暖化や生物多様性に加えて、焦点を当てながら環境学習の一つの取り組みとしてはどうかと考える。</p> <p>施設組合においては、指定管理期間を見直すことで、長期的なビジョンの実現に向けて、人材育成や試行錯誤も多々できる機会が生まれると考える。その他、施設内既存のWi-Fi(ワイファイ)環境などの通信設備の充実を図ることで、啓発施設のオンライン事業等の促進に向けた取り組みがより一層幅を広げられると考える。</p>
------	---

附帯意見の対応	<p>施設組合広報紙やホームページなどを活用して、引き続き地域への情報発信をさせていただきます。さらに、構成市町の環境系ご担当者が集う連絡会等において、行政のみならずと連携してまいります。</p> <p>また、環境への配慮が無意識にできるよう次世代を継続的に育成してまいります。なお、次年度より小学生から中高生向けのプログラム(年間コース)を計画する等、一市三町の関係部署と連携して様々な環境学習事業を計画・提案してまいります。</p> <p>現在、プラスチック問題を含めた17項目の啓発をSDGs展示コーナーで実施しています。今後も、大学研究機関や地域環境保全団体と連携し、環境問題における最新情報の入手および情報発信に努め、地域の環境学習拠点として取り組んでまいります。</p> <p>指定管理期間については、長期的なビジョンも含め施設組合において前向きに検討をさせていただきます。また、施設内既存のWi-Fi(ワイファイ)環境などの通信設備の充実についても改善できるように検討してまいります。</p>
---------	---

- ＜評価指標＞
- ＜個別項目評価＞
- A：協定書、事業計画書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績(効果)があり、優れた管理・運営が行われている。
 - B：概ね協定書、事業計画書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績(効果)があり、適切な管理・運営が行われている。
 - C：一部、改善・工夫を要する事項が見受けられたが、改善済み、または改善される見込みである。
 - D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。
- ＜管理体制評価＞ ＜経営状況評価＞ ＜運営事業評価＞
- A：個別項目評価が全てB以上であり、かつAが過半数である。
 - B：個別項目評価の8割以上がB以上である。
 - C：個別項目評価に複数のCが含まれる。
 - D：個別項目評価にDが1つでも含まれる。
- ＜総合評価＞
- A：総括評価にCが含まれず、かつAが2つ以上ある。
 - B：総括評価が全てB以上である。
 - C：総括評価にCが1つでも含まれる。
 - D：総括評価にDが1つでも含まれる。